

先天異常モニタリングの歴史

- 1950 風疹流行
- 1957 10 サリドマイド発売(ドイツ)
コンテルガン
- 1958 1 日本で発売(イソミン)
- 1961 11 Lenz報告⇒1961 11回収
- 1962 7 Kajii報告 8 札幌学会発表
- 1962 9 日本で回収⇒309名の被害者
⇒ 先天異常の情報ネットワークの必要性

先天異常モニタリングの歴史

■1958 サリドマイド発売

■1972 日本母性保護産婦人科医会(日母)
全国規模モニタリング開始

■1974 国際先天異常監視機構(WHO)

International Clearinghouse for Birth Defects

Helsinkiにて第1回会議

1970年代 鳥取, 神奈川, 石川, 東京, での
先天異常モニタリング開始

日本産婦人科医会先天異常モニタリング

- 横浜市大医学部国際先天異常モニタリングセンターで集計解析
- 国際先天異常監視機構(ICBDMS,WHO) 日本支部として国際連携サーベイランス機関として活動

日本産婦人科医会(旧日母) 先天異常モニタリング(JAOG)

- ・日本婦人科医会(日母)1972ー
- ・本邦における唯一の全国レベル調査
- ・全国330病院協力(病院ベース)
- ・全国の出産児の10%
- ・満22週以降, 生後7日以内
- ・妊娠中の服用薬剤の調査

横浜市立大学医学部先天異常モニタリングセンター

- ・ICBDMS(国際先天異常監視機構)の日本支部
- ・調査は4半期ごとに国際先天異常監視機構本部
報告・情報交換